

## 大阪労働局 大阪西労働基準監督署 中井隆裕



私は以前、民間企業に勤務していたのですが、働きすぎが原因で、調子を崩して起き上がることもできない同僚を目の当たりにし、長時間労働は命に関わる問題だと考えさせられました。また、私自身が仕事中の怪我、つまり労働災害に遭ったこともありました。大学時代に受けた講義で労働基準監督官の紹介があり、以前からその存在は知っていましたが、この2つの体験が労働者の健康や産業安全を守る使命を担っている労働基準監督官を志望するきっかけとなりました。

筆記試験の出題範囲は幅広いので、私は、学校のように1週間の時間割を作成し、時間を決めてどの科目も満遍なく勉強するようにしました。なお、日曜日は調整日として、できなかった科目や心身のリフレッシュなどに充てました。筆記試験の問題はパターン化しているものがあるので、過去の試験問題を繰り返し解くことが効率的かつ効果的です。

面接試験については、同じ試験勉強をしている仲間と、模擬面接の練習をしたり、将来やりたい職務内容について話しあったりしました。

現在は、賃金不払や解雇などの労働相談、労働災害についての調査、事業場や工場に立ち入り、法定労働条件の確保や産業安全についての行政指導の実施など幅広い職務を担っています。また、特別司法警察員として死亡災害や悪質な法違反に対する事件捜査の任務にも就いています。

労働基準監督官になって初めて知った法令や初めて見た仕事なども数多くあり、様々な経験をする事ができるので、毎日が充実しています。

労働条件を巡る問題事案の調査では、時に、激しい口調で応じられる方もおり、冷静に、そして毅然とした態度で接するのに苦勞するものもありますが、そのような事案が解決した際に相談者の方から感謝の言葉をいただいたり、監督した事業場の方と一緒に、今後起こりうる労働災害に対して未然防止策を講じることができたりした時は、とてもやりがいを感じます。

また、今後は安全衛生や労災補償に関する業務に就くこともあるため、いっそう幅広い職務を経験することができます。

労働基準監督官の職務は多岐にわたるため、知らない分野やわからないことに日々出会います。任官して日は浅いですが、悩んだり困難な事案にぶつかったりすることもありました。その度に、諸先輩方が助言指導して下さいます。

業務はどれも一筋縄ではいきませんが、行政の立場から労働者の法定労働条件の確保を指導できるのは労働基準監督官だけです。私はそれが労働基準監督官の使命であると思います。

これを読んで労働基準監督官を目指してみようと思っただけたらうれし  
いかぎりです。熱意と強い正義感を持った方、一緒にがんばりましょう。



## 神奈川県労働局 相模原労働基準監督署 岩崎美樹

私が労働基準監督官になりたいと思った主な理由は、大学で専攻した労働法を活かすことができ、また、人が生活する上で欠かすことのできない「労働」に関わる仕事をする事で、社会の役に立てるのではないかと考えたからです。

私は大学3年生の時に公務員試験の受験準備を始めましたが、私の試験勉強の方法は、とにかく過去問を解き、間違えた箇所をテキストに戻って復習するというもので、問題集を何回も繰り返して知識の定着に努めました。公務員試験は科目数が多いため、人によって得意な科目や不得意な科目があると思いますが、ある程度どの科目も満遍なく勉強することが大事だと思います。

現在、私は様々な事業場へ臨検監督に行ったり、電話や窓口で労働相談を受けたりしています。また、労働基準監督官の持っている司法警察権限に基づいて、被疑者や関係者の取り調べといった事件捜査も行っています。



労働基準監督官の業務はその他にも多岐にわたっているため、幅広い知識が必要になりますが、それ以上に、毎日知らない人と関わることばかりで、人と接することなしには成り立たない仕事ですから、人とうまくコミュニケーションがとれるということが、労働基準監督官に最も必要な能力だと私は思います。

職務を行っていく上で、辛さや責任の重さを感じることもありますが、労働基準監督官として私ができることをすることで、少しでも労働者の方々が働きやすくなればと思って日々職務に励んでいます。労働基準監督官の仕事は、一人一人に与えられた責任が重い分、やりがいも非常に大きいと思います。

労働基準監督官には全国異動が伴いますが、一生暮らすことのないかもしれない土地に住めるということは、私にとって全く苦になりませんし、むしろこの仕事の1つの魅力だと思います。

私は任官してからまだ1年半でわからないことも多いですが、これからたくさんの方のことを学び、少しでも多くの労働者や事業主の方の役に立ちたいと思います。

## 山口労働局 宇部労働基準監督署 齊藤千可士



私が労働基準監督官を目指したきっかけは、私の実体験が深く関わっています。私は以前、民間企業で働いており、残業も多くありましたが、十分な残業手当が支払われませんでした。ところが、ある日から残業手当が全額支払われるようになり、こんなに給料を貰えたのかと感動したのを覚えています。

そのことを大学の先輩に話したところ、先輩から「自分が働いている会社に労働基準監督署が調査に入り、サービス残業分の手当を支払ってもらったことがあるから、監督署が調査したんじゃないのかな。」と言われたことがきっかけで、労働基準監督署に興味を持ち、その役割などを調べたことが、監督官を目指す第一歩でした。更に、リーマンショックの影響で職を失われた方々を見て、少しでも困っている人を助けたいという思いが強くなり、監督官を一生の仕事にしたいと思ったのです。

ここで、理系出身者や民間企業在籍者で監督官を目指す方への受験勉強に関するアドバイスをご紹介します。

理系出身者の方は労働基準監督Bの試験を受けることが多いと思いますが、試験分野は幅広い一方で、内容は基礎的なものが大半です。ですから、まず基本に戻り、高校や大学で学んだ内容を中心に過去問を使って勉強するのが良いでしょう。

次に民間企業在籍者の方ですが、新卒者と比べて勉強時間を確保することが大変なので、効率よく勉強することが必要です。得意分野で9割、苦手分野の7割の正答率を目指し、得意分野を集中的に勉強することが合格の近道だと思います。

採用後、監督官は労働基準監督A、Bの試験区分に関わらず、一監督官として同じフィールドで働くこととなります。理系出身の私は、これまできちんとした法律の勉強をしたことがありませんでしたので、監督官として仕事を始めるまでは、法律を扱う仕事を本当に自分ができるのかと不安に思うこともありました。

しかし、採用1年目に、新人の監督官を集めて合計3か月近くに及ぶ中央研修があるほか、配属された監督署においても、上司や先輩から現場での実務をしっかりと教授していただけるなど、法律面、実務面ともに研修制度が充実していますので、法律を知らない方でも安心して監督官を目指していただきたいとします。

実際に仕事をするようになってからは思っていた以上に苦勞する案件もありますが、相談者から「解決しました！ありがとうございます！」と感謝の言葉をいただいた瞬間などは仕事への充実感を感じます。

あなたも充実した監督官人生を共に歩みましょう！

